



# 富小評価だより

令和3年9月14日 No.2  
富岡市立富岡小学校

令和3年度第1回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。学校では、成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。また、皆様からいただきました貴重なご意見を2学期からの学校教育に活かしてまいります。今後ご支援、ご協力をお願いいたします。

## 令和3年度学校評価一覧表

### 【教育目標の達成状況】

観点	評価項目	評価
みんな仲良く	自分から進んで挨拶や返事ができる	B
	きまりを守って生活することができる	A
	相手の気持ちが分かり、親切にできる	A
	みんなで協力することができる	A

観点	評価項目	評価
元気に運動	健康に気を付けて生活することができる	A
	進んで運動し体力を高めることができる	B
	安全に気を付けて生活することができる	A
	粘り強くやり抜くことができる	B

観点	評価項目	評価
本気で勉強	将来の夢や志をもっている	B
	基礎的な知識及び技能を習得している	B
	知識・技能を活用し課題を解決できる	B
	主体的に学習に取り組むことができる	B

### 【学校全体にかかわる要望・意見に対する回答】

<p>【挨拶について】 ○朝の旗振りの時に、挨拶をしても挨拶をしない子が多いように感じます。 【回答】 朝のお声がけありがとうございます。毎日の積み重ねを通して子どもたちの成長を促してまいります。自分から挨拶することのよさを、集会等の場で伝えてまいります。</p> <p>【コロナ対応について 1】 ○手洗いのための固形石鹸を液体のハンドソープに変えてもらえますか？液体石鹸の補充は、継ぎ足しではなく、ボトルを洗浄し乾燥させてから行っていますか？ 【回答】 夏休み中にボトル容器を購入し、校舎内外の手洗い場に設置いたしました。補充は、中身が空になってから行います。</p> <p>【コロナ対応について 2】 ○ウイルスに負けないために、正しいマスクの着用、十分な睡眠など、習慣づけが大切です。 【回答】 気を緩めることなく、基本的な感染予防の励行、規則正しい生活習慣づくりを、粘り強く学校全体で実践してまいります。</p> <p>【コロナ対応について 3】 ○コロナ禍でやって欲しくないこと、やって欲しいこと、保護者によって違うと思いますが、変異株に切り替わっていることを把握、危機感をもって欲しいと思います。 【回答】 感染拡大防止の徹底に向けて、学校施設や教育活動を再確認してまいります。</p> <p>【コロナ対応について 4】 ○給食を着用するのではなく、一人一人がエプロンとバンダナを持参して使うのはダメなんでしょうか？ 【回答】 給食着を個人所有のエプロン・バンダナ等に変更することについては、衛生管理上の問題点を市学校給食センター等と確認し、校内で検討してまいります。</p> <p>【コロナ対応について 5】 ○炎天下の中、登下校や体育の授業の時にもマスクを強要させているのでしょうか？ 【回答】 登下校中のマスクの着脱については、具体的な場面を取り上げて学級で指導してまいります。ご家庭でも継続してお声がけをお願いします。体育で運動を行う際は、熱中症予防の観点からマスクをはずすことも指導しています。</p> <p>【学校行事について】 ○修学旅行や運動会、卒業式など様々な行事がどの程度実施でき、どのくらいの方が参観できるのか気掛かりです。児童にとってよい思い出になるよう工夫していただければと思います。 【回答】 感染状況を踏まえ、参加者の健康確保を第一にしつつ、児童の思いや願いに寄り添った形態や内容を工夫して行事の実施を検討してまいります。</p> <p>【授業参観について】 ○動画配信による授業参観は良かったと思います。ライブ中継では仕事を休めない家庭は見ることができないので、自由な時間に見られたのは良かったと思います。ただ、カメラが固定で全く写っていない子がいたのは残念です。もちろん学校に行っただけで見られるのが一番なので、密を回避する工夫を検討してもらえれば嬉しいです。 【回答】 個人情報配慮の観点から、児童の表情の撮影や公開には制限を要する場合があります。ご理解願います。また、担任外の職員も授業や校務のため、全ての撮影に携わることは限りがありません。参観や公開日の再開については、感染状況の推移を踏まえて検討してまいります。</p> <p>【わくスタについて】 ○宿題として出されなければ自主的に実施しないことは事実です。しかし、わくスタコンテストと題してランキングをつけることが自主的に行動するきっかけになるのか疑問に感じています。 【回答】 創意工夫が顕著な「わくスタ」の校内掲示は、課題の設定や追究の方法、ノート整理の工夫について、多くの児童に参考例を示すことが目的で、順位付けは行っておりません。掲示をヒントに、児童が主体的な取組を向上させていくことを目指してまいります。</p> <p>【情報発信について 1】 ○今の状況下で仕方がないと理解していますが、なかなか学校での様子を伺い知ることができないことが少々残念に思います。</p>
--

### 【本年度の努力点についての評価】

※評価の見方… A：十分に成果があった B：成果があった C：少しの成果があった D：成果がなかった

観点	評価項目	評価	成果と課題	2学期の方策
確かな学力向上	学力向上委員会の機能化を図り、本校の実態に応じた学力向上対策を組織的に継続する。	A	○学力向上委員会の班別部会を細分化し、より指導や評価に生かせる取り組みを進めることができた。 ●「評定に用いる評価」の位置づけの周知徹底が不十分。	・今年度の状況や児童の実態に応じた対策協議を行う。 ・授業の週予定を評価記録として活用する。
	的確な実態把握に基づき、個に応じた指導・支援を充実し、生きて働く「知識・技能」の確実な習得を図る。	B	○教科担任制や学年での教材研究により、授業改善に努めることができた。 ●個に応じた学習を充実させていく必要がある。	・個に応じた指導・支援をより具体的に進めるための効果的な補充学習について考え、実践する。
	必然性のある課題設定による体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する。	B	○児童が必然性を感じられるよう、導入部分を工夫した授業づくりに努めた。 ●協働的な学習の場について工夫する必要がある。	・うなずきや相づちなど児童同士で聴き合う力の向上を図る。 ・既習事項とつなげて考えられるような授業の導入の工夫を行う。
	学ぶ目的を明確にし、自ら考え、互いに高め合う児童主体の授業を通して、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養する。	B	○児童の実態把握や教員同士の情報交換を行い、児童主体の授業の実践に努めた。 ●授業の様子や学校での児童の様子がわからないという保護者が多かった。	・学年間だけでなく、ブロック間でも情報交換を行う。 ・保護者に学校での取組や授業の様子を積極的に伝えていく。
	「わくわくスタディ」「学習の約束」の共通実践により、家庭と連携して、児童の主体性を高め、学習習慣・読書習慣・学習規律の定着を図る。	B	○各学年ごとに「わくわくスタ」や「わくスタコンテスト」の様子を Web に載せることで、保護者に家庭学習の様子を知らせることができた。 ●自主的にできていないなど、自主学習の本来の意味を問う保護者からの声があった。	・各教科の授業で、学習に関連した「わくスタ」の内容を具体的に示したり、より関心を高められるようにしていく。 ・web でわくスタに関する学年ごとの取組や児童の取組の紹介を継続していく。
	小中9年間の学びのつながりを踏まえ、ALTや支援員を活用して生きた英語に触れる機会を充実させた授業を実践し、積極的にコミュニケーションを図る児童を育成する。	B	○1学期途中から昼休みにイングリッシュカフェを行い、英語を使う機会を増やすことができた。 ●小中9年間のつながりを考えた学びに向けた連携が中学校ととれていない。	・ALT、外国語活動支援員との計画的な打合せの実施。 ・外国語に親しむ校内環境の整備。 ・イングリッシュカフェを通した、英語に触れる機会の充実。
	タブレット端末等のICT機器を適切に用いて、問題解決的な学習や協働的な学習を充実させ、情報活用能力の向上を図る。	B	○教員や児童がタブレット端末を用いやすい環境をつくるよう、物品やアカウント管理ができた。 ●学年によって使用頻度にばらつきがある。	・タブレット活用の実践事例について情報を集め、各学年で共有する。
	「キャリアパスポート」の計画的な活用を通して、夢や志の実現に向け、個性を生かしながら自己成長を図るキャリア教育を推進する。	B	○年度当初に、職員へキャリア教育の研修を行ったり、学年通信で七夕の取組を家庭へ知らせたりした。 ●「キャリアパスポート」の効果的な利用について、保護者の26%は効果的でないと答えていた。	・今後とも、職員への啓発活動とともに、保護者にも学年通信等を通じてキャリア教育の意義を啓発していく。
	「特別の教科 道徳」を核とした道徳教育の充実により、発達段階に応じた道徳性を養う。	B	○年度当初に、道徳の授業スタンダードの説明を行った。 ●学校での取り組みを、家庭・地域に知らせることができなかつた。	・授業スタンダードに沿った授業の公開、情報の発信を積極的に行う。 ・学校での取組を、Web等で家庭・地域に発信する。
	「なかよし月間」「なかよし旬間」を核とした人権教育の充実により、人権感覚を磨き、人権尊重の精神を涵養する。	B	○人権感覚チェックリストを作成し、教職員の人権感覚の涵養に努めた。 ●1学期中になかよし旬間を設定せず、愛好会を中心とした活動を実施できなかった。	・人権部会を開催し、なかよし月間、なかよし旬間を充実させていく。
「言葉を大切にす学校」として挨拶等の言語環境を整えるとともに、周囲に良い影響を与え合う望ましい人間関係を築き、互いに認め合い、高め合える学級経営を実践する。	A	○共感的な児童理解と細やかな支援の充実を努めた。 ●学校での様子をより積極的に伝える必要がある。	・共感的な児童理解と細やかな指導を継続し、教職員が子どもたちの模範となるように努める。 ・Web ページでの発信をさらに積極的に行うように努める。	
生徒指導の三機能を自覚し、児童のよさを多角的・多面的に捉え、常に「積極的な生徒指導」を実践	A	○児童のよさを多面的・多角的に捉え、ほめて伸ばす指導を行うことができた。 ●児童のよさを保護者にも積極的に伝えることが十分でなかつた。	・コロナ禍においても、児童が活躍できる場を工夫して設定する。 ・保護者にも、児童のよさを積極的に伝える。	

	する。		た。	
	生活支援委員会を定期的に開催し、保護者との相互理解の下、いじめや不適応・問題行動等の早期発見・早期解決を図る。	A	○生活支援委員会を行って、問題の早期発見ができた。 ●保護者との連携をより一層深める。	・日常の観察をより深め、問題の未然防止に努める。 ・引き続き電話、連絡帳等で保護者との連携を深める。
	SCや心の教室相談員との連携を深め、児童や保護者が安心して相談できる教育相談体制を整える。	A	○SC及び心の教室相談員との連携ができ、教育相談体制が高まった。 ●SC面談枠が少なく、面談を受けたい保護者が受けられないことがあった。	・SOSの出し方教育の実践を推進し、児童のスキルを向上させる。 ・教職員のカウンセリングマインドの向上を図る。
健全な体づくり	体育的活動の充実により運動習慣の定着と運動の質的・量的確保を推進する。	B	○体育集会では、運動委員会、6年生を中心に活動することができた。 ○各学年で教材や指導方法、場の設定について情報交換を行いながら授業を行うことができた。 ●児童の運動習慣の定着につながる活動があまりできていなかった。	・体育部で情報交換を行い、系統を意識した授業づくりを行えるようにする。また、児童の運動習慣につながる活動が行えるよう、体育部で検討し実施する。 ・家庭へ学年通信やWebページを活用し、体育的活動の様子を発信する。
	感染予防を核とする健康教育や食育の充実により、基本的な生活習慣や望ましい食習慣の定着を図る。	B	○基本的な生活習慣の定着のため学期に1回の生活ふり返りの取組を設定した。 ●感染者発生時の対応等の危機管理体制の見直しが不十分だった。	・生活ふり返りの取組を定着させる。 ・季節性インフルエンザの流行期に向けて更なる感染症対策の徹底を図る。
	安全教育の充実により、自他の生命や健康を守る危険予測・危機回避能力を育成する。	B	○避難訓練（火災）を全校で実施し、防災、災害対策について指導することができた。 ○登下校の危険な行動について、迅速に事案を把握し、指導することができた。	・全校での保護者への児童引き渡し訓練ができないため、継続的に児童へ防災や災害対策について指導する。また、保護者への情報提供、教職員の意識の高揚を図る。
組織的である学校づくり	本校の教育課題や地域の実態に応じた特色ある教育課程をマネジメントする。	B	○学校評価の各項目の実態を多面的・多角的に把握することができた。 ●保護者や地域と連携した学習活動を実施する機会が少なかった。	・実態に基づき立案した方策を、月ごとの振り返りで軌道修正しつつ実施する。
	「人事評価制度」や「教員育成指標」の適切な運用により学校経営参画意識を高め、職員一人一人が自分の役割を自覚するとともに、組織的に学校運営に取り組む。	A	○当初面談を通して、学校経営方針とリンクした業績評価の目標設定を行うことができた。 ○各教職員が、自己目標に対し意識を高く持ち続けることができた。	・経営方針とリンクした目標達成に向けた実践。 ・一人1授業による目標達成状況の管理職による確認。
	「規律確保行動計画」に則り、服務規律を遵守し、常に教育公務員としての使命感と責任感をもって職務を遂行する。	A	○「服務規律確保チェックリスト」で、自己点検を行うことにより、服務規律の確保に努めることができた。	・県内外で発生した非違行為を職員に知らせ、本校で発生したと仮定して当事者意識をもって考えられるようにする。 ・県教育委員会版「服務規律の確保チェックリスト」の結果を踏まえた研修を行う。
	校内研修を核として職員研修の充実を図り、教職員の指導力の向上を図るとともに、互いに高め合う同僚性あふれる職員集団づくりを推進する。	A	○グループでの話し合いや意見交流の場を多く設定したことにより、教職員一人一人が研修をより自分事として捉え、指導力の向上に向け取り組むことができた。 ●学年ブロック間による情報共有及びつながりが不十分だった。	・学年やブロック間での情報共有をしっかりと行えるよう、交流の場を設定する。 ・模擬授業、研究授業を通して、指導力の向上を図るとともに、対話的な学びの在り方や有効性について明らかにできるようにする。
	特別支援コーディネーターを核として、児童一人一人のニーズに応じた支援を充実する。	A	○生活指導委員会や支援相談から、西小発達支援教室の巡回相談や西部教育事務所の特別支援教育の専門の先生へとつなげることができた。 ●個別の支援計画が有効に活用されていない。	・個別の支援計画の様式とファイルを刷新し、児童や保護者の思いを反映できるような支援計画に作り直す。担任から児童についての聞き取りを行ったり、入力を依頼することで、今後の支援計画や有効な支援方法について共通理解を図れるようにする。
	言語指導教室における指導の充実により、通級児童の実態に応じた課題解決を図る。	A	○3校合同の研修を定期的に開催し、情報交換・講義・課題のある児童の事例研究等を行い、新しい情報を得たり知見を広げることができた。 ●既存の教材・教具に頼るばかりで、新しい教材・教具の開発が不十分である。今の担当児童の実態に合わせた教材・教具を考えたい。	・個別の指導計画の前期の評価をもとに後期の目標や指導方法を見直し、より児童の実態に即した指導方法、教材・教具を考え、実践する。
	令和4年度の家庭科関ブロ大会に向けて、実践的研究の深化と円滑な大会運営準備を推進する。	A	○校内研修の中で、目指す児童像やテーマについて考え、共通理解を図ることができた。 ●関ブロ大会に向けて公開授業の確認や準備が進んでいない。	・学年ブロックごとに授業実践を行い、来年度に向けて授業改善をさらに進める。また、掲示物などの作成を進める。 ・県からの報告をもとに、関ブロ大会に向けた資料準備を行っていく。
地域に根ざした信頼される学校づくり	東中学校及びこども園等との連携による系統性・一貫性・連続性のある指導を行う。	B	○こども園等との連携については、夏期休業中に園を訪問したり、電話連絡をしたりして、現在の児童の様子などの情報を交換することができた。 ●コロナ感染防止のため、幼小保こ連携会議等が中止になり、思うように連携事業が実施できなかった。	・小中連携推進事業や幼保小こ連携推進会議等、コロナ感染拡大を防止しながら、やり方を工夫して実施できることを行う。
	Webページや各種通信等を活用し、本校の取組を家庭・地域へ積極的に配信する。	A	○各々の学年が、毎週更新することができた。 ●学年で更新頻度に差が生じている。	・学年間で更新差が生じないように、更新頻度を全体共有する。 ・情報担当が当初に出したWebページの管理について、全職員に周知徹底する。
	学校評価や学校評議員制度を活用し、保護者や地域からの情報を収集・分析することで、学校課題を把握し改善を図る。	A	○1学期の学校評価を通して、学校課題を明確にすることができた。 ●学校の取組が家庭や地域と共有できるような情報発信のさらなる強化が必要である。	・第1回学校評価の成果と課題を生かした学校課題の改善。 ・学校課題の共有と2学期の方策の着実な実施。
	学校家庭地域連携推進会議の実施により、学校課題について熟議し、協働できるようにする。	B	○地域、家庭、学校で情報を共有し合い学校課題に対して向き合うことができた。 ●社会情勢の状況により、制限がある中での実践となってしまった。	・社会情勢の状況に柔軟に対応して、できる限りの連携を行う。

**回答**  
通信や学校Webを通して、今後も子どもたちの取組を発信してまいります。

**【情報発信について 2】**  
○地域の住民は、若い人だけではないことも考えていただけたいと思います。インターネットやHPなどによるものみの発信など・・・。コロナが終息した後でよいと思いますが、学校の方から地域に対し、もう少し依頼や協力要請など、気楽にできたらと思っています。

**回答**  
地域に回覧される学校通信の活用を、各地区でもお声がけいただけると幸いです。一日も早い感染症の収束に向け、今こそ地域・家庭・学校が一つとなって対策に取り組んでまいります。

**【情報発信について 3】**  
○お便りの表現が、初めての小学校生活だと分らず、保育園の時とは違い連絡事項の確認に困ることがあります。

**回答**  
通信の内容等で不明な点は、遠慮なく担任までご相談ください。

**【情報発信について 4】**  
○タブレット学習の連絡について、約束事が一方的な記載で低学年の子どもには分かりにくい表現だと感じました。

**回答**  
学校全体で統一した内容を伝えるため、低学年児童には難しい表現も含まれておりました。端末使用のルール等については、各学級で児童の実態に即して具体的に指導してまいります。

**【ホームページについて 1】**  
○もう少し更新率を高めてほしいです。

**回答**  
各学級で週1回以上の更新に努めてまいります。「今週の主な行事」をトップ画面の「お知らせ」に掲載いたします。

**【ホームページについて 2】**  
○毎回楽しみにしています。コロナで学校の様子を見に行けないので、たくさん子どもたちの学校生活を載せていただけると嬉しいです。

**回答**  
日々の閲覧、ありがとうございます。コロナ禍のなか、さらに工夫・改善を図ってまいります。

**【ホームページについて 3】**  
○今日の出来事の掲載数が学年によって差があるのが不満。今日の給食が載らなくなったのも不満。

**回答**  
各学級で週1回以上の更新に努めてまいります。給食は市の学校給食センターの献立紹介を本校のWebページから閲覧できるようにしました。本校の栄養教諭が作成している記事をご活用ください。

**【授業参観について 1】**  
○授業参観や公開日がないので、先生と直接話す機会がありません。希望者に面談を設けるなど、直接子どもの様子を聞ける機会がほしいです。

**回答**  
ご質問等がある場合は、遠慮なく担任までご連絡ください。

**【授業参観について 2】**  
○コロナが落ち着いたタイミングで、感染症対策を十分講じた上で授業参観を行ってほしいです。

**回答**  
県内や市内の感染状況踏まえて、参観や公開の可否を検討したいと考えています。

**【水泳について】**  
○コロナ禍ということもあり、せっかく富岡スイミングでのプール授業も一度しかなかったもので、また今後実施の方向で考えていただきたい。

**回答**  
スイミングスクールでの指導は、市教委との申しせで県警戒度「2」以下での実施としました。今年度は各学年とも1回程度の実施でした。2学期以降は、甘楽町の小学校の実習が予定されており、追加の実習は困難な状況です。スクール利用の利点を市教委に報告し、継続実施を要望してまいります。

**【アンケートについて 1】**  
○学校に行く機会が少ないため、分からない項目があった。保護者の立場からみると、どのような物がありどのように実施されているのか見ていないと分からないものがあった。

**回答**  
回答は、答えられる部分だけで構いません。

**【アンケートについて 2】**  
○私の住んでいる地区では、富小に通う児童の姿はほとんどありません。校内に入る機会も全くないわけで、アンケートに答えることはとても難しいです。唯一「富小だより」を読ませていただいているので、手がかりにしました。先生方（学校側）の思いは伝わってきます。

**回答**  
学校通信のご愛読、ありがとうございます。回答は答えられる部分だけで構いません。

**【交通安全について 1】**  
通学路に細くて危険な箇所があるため、通学の時間帯だけでも通行禁止にするなり

	スクールサポートボランティア「とみさぼ」の充実を図り、年間指導計画を踏まえて、外部人材を積極的に活用する。	A	○学年行事や水泳での安全観察で新たな人材を発掘し、延べ 50 名以上の協力を得ることができた。	・今後も継続的に「とみさぼ」を活用していくため、見直しをもって計画的にボランティアを募集していく。
健康で安全・安心な学校づくり	感染防止マニュアルや学校安全管理マニュアルの共通理解により、危機管理を徹底する。	A	○食物アレルギー児童への対応についてマニュアル化し、職員間での共通理解の徹底に努めた。 ○危機管理マニュアルの共通理解により危機管理意識を高めることができた。 ●感染防止マニュアルや学校安全管理マニュアルについて保護者の知らないことがある。	・引き続き、日常生活や緊急時等どんな場面でも全職員が危機意識を持って、指導にあたるようにするために、特にアナフィラキシーについての研修を行う。
	学校施設設備や通学路の安全点検を徹底し、迅速に問題点を改善する。	B	○毎月校舎内外の施設設備の点検を行って、危険箇所等を確認し、必要に応じて修理することができた。 ○通学路の危険箇所について、保護者・児童からの情報をもとに確認したが、改修等はすぐにできるとは限らないため、まずは注意喚起を周知するようにしていく。	・通学路危険箇所の点検結果を基にして、安全マップを見直し改定する。
	適切で効果的な予算執行により、教育環境の最適化を推進する。	A	○課題箇所の早期発見、迅速な現場確認を行い、配当予算で対応できる案件については、早期に改善できた。 ○備品・物品等の保管場所の明確化は、S S S 等と連携し計画を改善中である。 ●高額、中規模以上の修繕は関係機関と連携し改善途上である。	・授業や休み時間の児童の活動を把握しながら、継続して危険箇所を改善して安全・安心な学校づくりをすすめる。
働き方向上	働き方改革を着実に進め、さらなる校務の効率化・マニュアル化を図り、持続可能なシステムづくりを継続する。	A	○C 4 t h の活用促進による情報の迅速な共有化、効率化が進められた。 ●校内の課題に対して、職員間の迅速な情報共有、十分な共通理解、校外諸機関、地域との連携を更に密にしていきたい。	・市費職員、校外諸機関や地域との情報共有、連携を円滑化し、さらに加重負担解消、明るい学校づくりをすすめる。
	勤務時間の適正な管理により、職員のワークライフバランス（ベスト・エデュケーション/ベスト・コンディション）やメンタルヘルスの保持に努める。	A	○定時退勤日や週休日勤務の解消について共通理解が進んだ。 ○時間外勤務の月平均がコロナ禍以前（令和元年度）を下回り、働き方向上のシステムが持続可能なものとなっている。 ●退庁時間の月平均が 19 時を超過している。	・退庁時間の実態を毎月レポートとして見える化し、ゴール（19 時退庁）に向けて必要な職務の効率化や優先順位付けを促していく。

何か対応していただきたいです。

**回答**  
区長さんに情報を提供し、市や警察への働きかけについて要望します。

**【交通安全について 2】**  
通学路の危険箇所や改善要望箇所についてアンケートをとり、安全な登下校ができるようにしていただきたいです。

**回答**  
通学路の危険箇所等の情報収集については、PTA地区委員会と相談します。

**【交通安全について 3】**  
何年か前から登下校での児童の行動で危険だと思っております。

**回答**  
情報を学校までお寄せいただくとともに、見かけた場合は、ぜひご指導をお願いします。

**【交通安全について 4】**  
友達と一緒に帰る児童は、時々走り出したりします。集団となるとやや警戒心が下がるかもしれませんが、特に下校中ですが、友達同士で大きな声で叫びながら帰る子もいます。校外マナーへの指導もしてください。

**回答**  
交通安全と併せて登下校中のマナーについても、各学級で指導いたします。

**【交通安全について 5】**  
子どもだけではないと思いますが、自転車も「止まれ」の標識を必ず守ることをお願いします。

**回答**  
「止まれ」の標識の意味と遵守について指導いたします。

**【交通安全について 6】**  
町なかに自転車で友達同士で買い物や遊びに来る児童の交通マナーが気になります。狭い通りに自転車で歩行者の妨げをしていたり・・・。乗り方の指導は十分していると思いますが、皆の安全のためにお願いします。

**回答**  
歩行者にも配慮した自転車の利用について、具体的な事例を示して指導いたします。

**【豊かな心の育成について 1】**  
児童の人間的成长へのご指導をよろしくお願いします。

**回答**  
道徳の授業を要に、学校の教育活動全体を通して豊かな心を育ててまいります。

**【豊かな心の育成について 2】**  
地域という大きな社会の中での安全やルールを守ることへの認識が甘い子どもたちが多く感じています。コロナ禍で、守らなければならないことが増えて子どもたちにとって負担だと思いますが、上手に適應できる子どもたちが増えることを期待しています。

**回答**  
将来の地域社会を担う人材を育成するため、地域のお立場から子どもたちへのよきお声かけをお願いいたします。

**【タブレット利用について】**  
タブレットの使用についても学校で検討していただき、学年問わず使用できるようにしていただきたいと思っております。

**回答**  
2学期は、授業等で児童がタブレットに触れる機会を拡充してまいります。

**【願い】**  
去年はほとんどが中止となってしまったため一つでも多くの行事ができるといいなと思っています。まだまだコロナは収束しませんが、先生たちも感染予防を徹底してください本当にありがとうございます。先生やお友達と1日1日を楽しんで思い出の一つでも多くつくってほしいです。

**回答**  
保護者の方の声援は担任にとって何よりの力です。2学期も子どもたちの思いや願いに寄り添えるよう学校全体で取り組んでまいります。